

長崎・原の辻遺跡

- 1 所在地 長崎県老岐郡石田町・芦辺町
- 2 調査期間 一九九三年(平5)四月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 石田町教育委員会
- 4 調査担当者 副島和明・山下英明・松永泰彦
- 5 遺跡の種類 集落跡・官衙跡か
- 6 遺跡の年代 旧石器時代・弥生時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(本勝)

原の辻遺跡は、東西約一五km、南北約一七km、面積約一三八km²の老岐島の南東部に位置している。遺跡は、小川・池田川・幡鉾川に囲まれた丘陵上から幡鉾川流域の深江田原に南北に突出した舌状の丘(標高八～一七m)、及び現水田面(標高五～六m)を含む約八〇haに分布する。遺跡の西約一kmの低丘陵上には国府跡と推定されている興原遺跡(石田町)、興触遺跡(芦田町)が

所在するが、考古学上の確認調査は実施されていない。

原の辻遺跡の調査は、一九九三年度の県営幡鉾川流域総合整備事業(圃場整備事業)に伴う緊急発掘調査で、一九九三年度の国庫補助事業及び農水省部局の委託事業として、石田町教育委員会が県教育委員会の調査指導を得て実施したものである。

調査の結果、原の辻遺跡は弥生時代前期から終末期にかけての大規模な多重環濠集落跡であることが判明した。環濠の規模は、南北約八五〇m、東西約三五〇mの平面楕円形状の範囲に外濠、中濠、内濠が三重に巡っているものと推測され、外濠で囲む面積は、約二五haである。また、弥生時代の遺物が数十万点と多量に出土している。

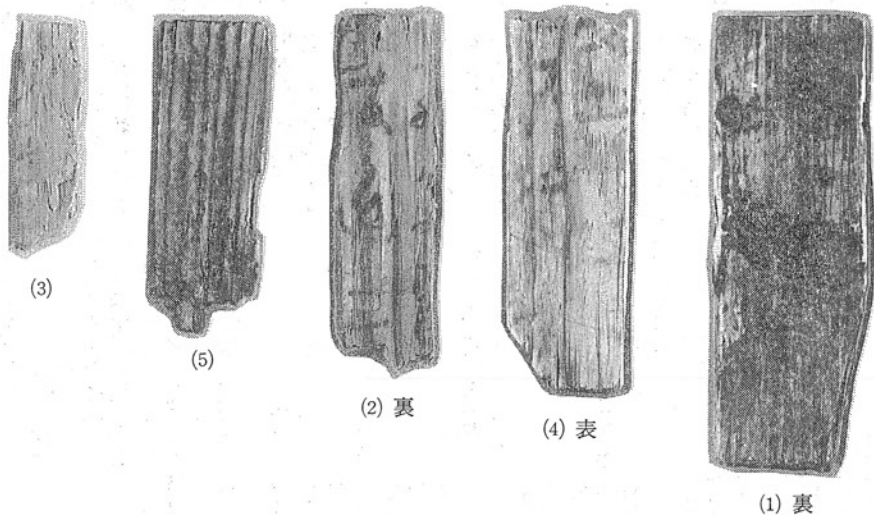
木簡は、弥生時代の環濠上に掘られた土坑内から五点一括して出土した。共伴する遺物はないが、内容から古代(奈良～平安時代)の木簡と考えられる。

なお、遺跡南端部分の発掘調査で、古代(平安時代)の輸入陶磁器片が多数出土する地域があることが明らかになった。明確な遺構は検出されていないが、主体部は丘陵上にあることが推察され、古代の官衙跡などの施設が存在が考えられる。今後、原の辻遺跡は、継続的な発掘調査が計画されている。また興触遺跡も開発に伴う発掘調査が予定されており、老岐島の古代に関する様相が明らかになることを期待したい。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「 」_{進カ}
- ・「白玉六」_{〔伙カ〕}
- 高
- (2) ・「赤万呂七八升 」_{〔高カ〕}
- 七升
- _{〔七升八升カ〕}
- ・
- 『友 一 一』
- (3)
- (5)
- (4) ・
- 「 」_{〔升カ〕}
- ・
- 「 」
- (91) × (21) × 3 081
- (58) × (19) × (7) 081
- (96) × 30 × 6 019
- (80) × 28 × 5 081
- (115) × (38) × 10 081

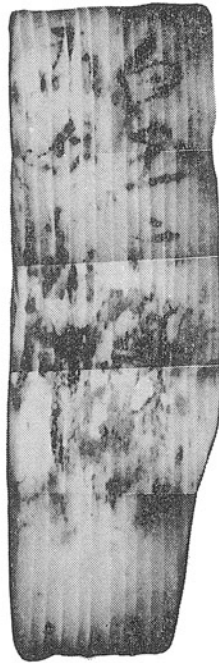
(1)は、貢進に関わる木簡と考えられ、「白玉六□」が注目される裏の四字めの□は「升」または「斤」の可能性がある。「白玉」については、島内及びその周辺から調達されたものかあるいは中国産の可能性もある。杵岐は中国・朝鮮半島との交易の重要な中継地と考えられ、中国産の原石となると貴重な資料である。また、大宰府



跡出土の「白玉帯」との関連が注目される。(2)は食料の支給帳簿と考えられる。裏面二字めは「進」または「近」の可能性があるが、「友近」と読めれば、支給責任者の自署か。(3)は、(2)と同一木簡の一部と思われるが、内容は不明である。(4)は、表面の斗量と裏面の人名と思われる記載から、食品請求または貢進に関わる木簡と考えられる。(5)は、内容が不明である。

なお、木簡の釈読・内容については国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

(副島和明)



(1) 裏赤外線写真

第九回「大学と科学」公開シンポジウム

古代に挑戦する自然科学 開催のお知らせ

日時 一九九五年二月一日(水)～二日(木)
場所 有楽町朝日ホール(東京都千代田区有楽町二一五) 有楽町マリオン二F

主催 第九回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
後援 文部省、木簡学会 他
内容 ▼二月一日(水) 一〇時一〇分～一六時三〇分

・総合講演 古代への挑戦 (司会) 田中 加藤 晋平
・古代遺産への挑戦 (司会) 西村 康
・掘らずに遺跡を探る 藤ノ木古墳の金よみがえる (司会) 佐原 真
・古代生活への挑戦 稲作の起源を求めて トイレ考古学のはじまり (司会) 松井 宏志
・骨から病気を読む (司会) 鈴木 隆雄

▼二月二日(木) 一〇時～一六時三〇分 (司会) 馬淵 久夫
・古代手工業への挑戦 古代漆の源流 (司会) 永嶋 正春
・古代ガラスの材質 古代金工のハイテク (司会) 肥塚 隆保
・古代環境への挑戦 古代環境を読む (司会) 戸沢 充則
・珪藻類・昆虫化石からわかること (司会) 森 孝悌
・骨から食物を読む (司会) 南川 雅男

申込先 葉書に『古代に挑戦する自然科学』参加希望とお書きの上、氏名・郵便番号・住所(自宅か勤務先か明記)・職業を明記して、一九九五年一月二日(土)までに左記宛お申し込みください。聴講無料。希望者多数の場合は抽選になります。

〒一〇二 東京都千代田区飯田橋四一六五 TH第四ビル四F
クパプロ内『古代に挑戦する自然科学』事務局
TEL 〇三―三三三八―一六八九